

2013年1月

福祉をかえる「アート化」セミナー@宮城
福祉をかえる「アート化」セミナー@福島



ショップ「ハチプオンブ」ができるまで

はじめは、2013年1月に仙台で開催された「Good Job! 東北プロジェクト福祉をかえるアート化セミナー」。この時期は復興需要の減少を背景に施設の売り上げが減少傾向にあり、今一度「何のために商品をつくるのか」という根本に立ち返る必要があるという問題意識がありました。

2014年春、難民を助ける会による支援を受けて「モノづくりのためのコンセプトワーク@宮城」を開催。夏にはさらに具体的で実践的な研修を開発する話が持ちあがりました。

秋、「せんくら」販売会を念頭においた「実践!モノづくりのためのコンセプトワーク～せんくら編」を開催。実は、2013年のせんくらでもいくつかの福祉施設に声をかけ出店したのですが、売り上げは3日間でわずか10万程度。この実践型の研修の機会に、商品や販売方法の質を高め、販売を通じて確かな成果をあげることがめざしたのです。

「実践!モノづくりのためのコンセプトワーク～せんくら編」では、ターゲットの具体化とイメージマップの作成、パッケージデザインやアウトプット手法などを実践的に学習。課題を言葉にし、整理することで根本的なコンセプトを導き出し、日常の商品づくりにつながる価値を創造するワークを集中的に実施しました。また、「せんくら」を主催する仙台市民文化事業団の全面的な協力により、基礎情報の収集と精査を徹底。イベント概要、客層、販売会の様子などを把握したうえでのブランディングは、今までになく具体的なものとなりました。さらに、ともしれば目分量になりがちな価格をいかに適正に保つかというポイントも、価格設定や製品原価計算の方法な

2014年4月

「モノづくりのためのコンセプトワーク」@岩手
「モノづくりのためのコンセプトワーク」@宮城



2014年8月

「実践!モノづくりのためのコンセプトワーク～せんくら編」

- ① 商品の具現化・イメージマップ講座
- ② 商品のアウトプット・パッケージ講座



2014年9月

「実践!モノづくりのためのコンセプトワーク～せんくら編」

- ③ 個別相談会 / 商品公開&選考デイ

はずま
キモチ

ハチプオンブ

「楽都仙台」と称されるほど音楽活動が盛んな都市、仙台。なかでも、毎年10月の3日間、街がクラシック音楽にあふれる「仙台クラシックフェスティバル(略称、せんくら)」は、多くの市民に愛される仙台秋の風物詩です。ホール公演に加え、市街地や地下鉄駅構内など多様な会場で80以上のコンサートが行われ、震災以後は音楽の力による復興をテーマに、街に元気をもたらしています。

2014年、この「せんくら」の会場にショップ・ハチプオンブが出店しました。Good Job! 東北プロジェクトのセミナー「実践!モノづくりのためのコンセプトワーク～せんくら編」から生まれたものです。商品は、多夢多夢舎中山工房、みどり工房若林、すびなつち(以上、仙台市)、工房地球村(山元町)、さくらんぼ(多賀城市)

の7施設とエイブルアートのカンパニーが全3回の講座のなかで「音楽」をテーマに企画・制作したものを。参加者は、八分音符にかけて音から楽しさをイメージさせるショップ名「ハチプオンブ」や、キャッチコピー、ディスプレイを、思考錯誤しながらつくり出しました。曖昧になりがちなたーゲット設定からコンセプトメイキング、商品開発から販売計画まで、出店への流れを一から学ぶことで、より具体的で魅力のあるものづくりを実現。「音楽」という共通のテーマで、複数の施設が協働開発するプロジェクトはエイブルアート・カンパニーとしても初の試みでしたが、3日間の売り上げは前年の4倍となりました。参加者はセミナーによる成果を実感。確かな手応えが得られました。

